

## 8 章 光ケーブル工

### 8.1 光ケーブル配管工

8.1.1 適用

8.1.2 土工

8.1.3 配管設置

8.1.4 ハンドホール設置

## 8章 光ケーブル工

### 8.1 光ケーブル配管工

#### 8.1.1 適用

##### 1. 適用

河川堤防に布設する光ケーブル配管工事に適用する。

#### 8.1.2 土工

##### 1. 適用

光ケーブル配管工事の土工に適用する。

##### 2. 数量算出項目

掘削、埋戻しの土量を区分ごとに算出する。

##### 3. 区分

区分は、なし。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報		
			単位	数量	備考
掘削(光ケーブル配管)		土構造	m <sup>3</sup>		
埋戻し締固め		土構造	m <sup>3</sup>		レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用

- (注) 1. 掘削及び残土処理数量は、地山数量とする。  
2. 埋戻し締固めの土量は、締固め後の土量とする。

### 8. 1. 3 配管設置

#### 1. 適用

配管及び付属品の設置に適用する。

#### 2. 数量算出項目

配管の設置延長を区分ごとに算出する。

#### 3. 区分

区分は、多孔保護管の有無、配管材設計数量/対象延長、設置条数とする。

##### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元 モデル	属性情報				
			配管材 種類	配管材 設計数量 /対象延長	設置条数	単位	数量
配管設置（埋設部）	B	○	×	○	m		注) 1
配管設置（露出部）	B	×	○	○	m		注) 2. 3
配管支持金具 （材料費）	C	×	×	×	個		
プルボックス （材料費）	C	×	×	×	個		
可とう電線管 （材料費）	C	×	×	×	m		
伸縮継手 （材料費）	C	×	×	×	個		
ノーマルバンド （材料費）	C	×	×	×	個		
多孔保護管 （材料費）	C	×	×	×	m		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 埋設部の対象延長（設計数量）は、配管設置箇所の掘削延長（継手含む）とし、配管の条数に関係なく算出する。

2. 露出部の対象延長（設計数量）は、継手材及び配管付属品類を含んだ区間延長とし、配管の条数に関係なく算出する。

3. 配管材設計数量/対象延長の条件区分は、参考図2における  $a/(a+b)$  の比率による。

##### (2) 施工区分

1. 埋設部、露出部ごとに算出する。

注) 露出部とは、管路を構造物等に添架して設置する部分をいう。

## 8. 1. 4 ハンドホール設置

### 1. 適用

ハンドホール、蓋等の設置に適用する。

### 2. 数量算出項目

ハンドホール、蓋を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、規格・仕様とする。

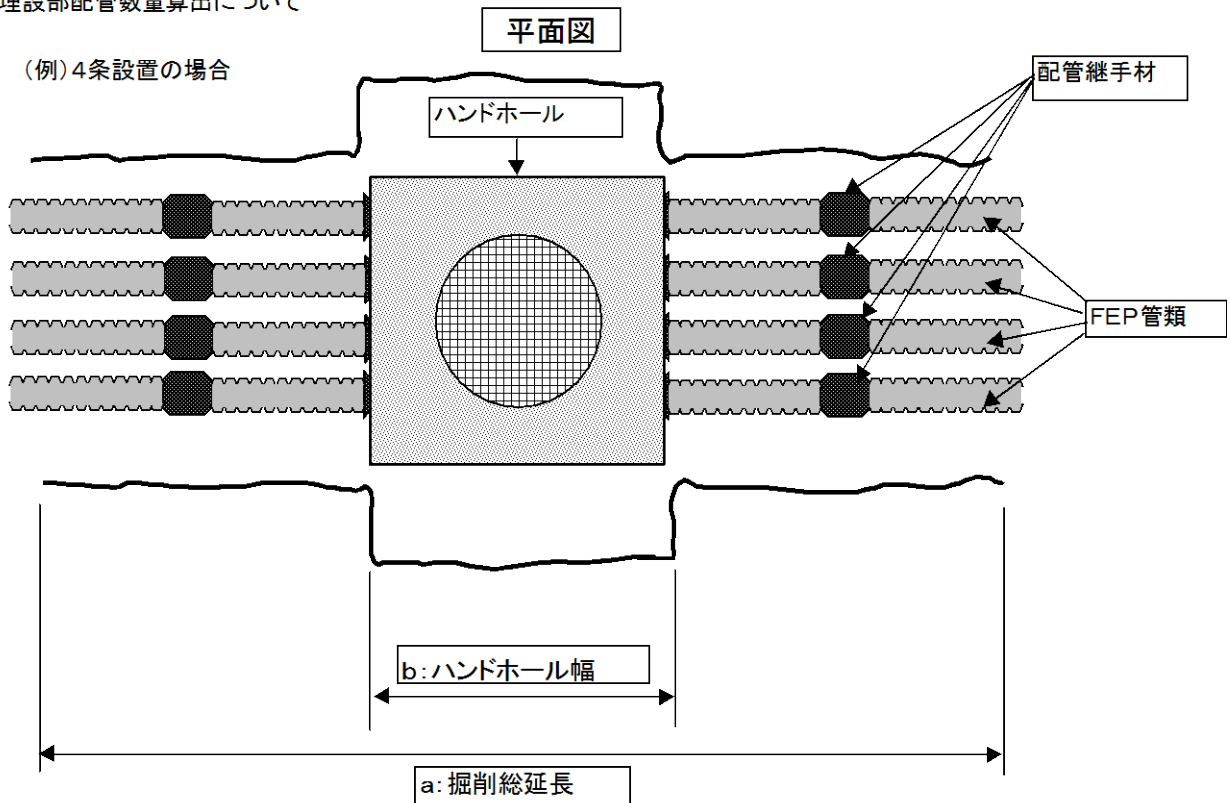
#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元 モデル	属性情報			
			規格・仕様	単位	数量	備考
ハンドホール		B	○	個		
蓋		C	○	枚		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

[参考図 1]

埋設部配管数量算出について

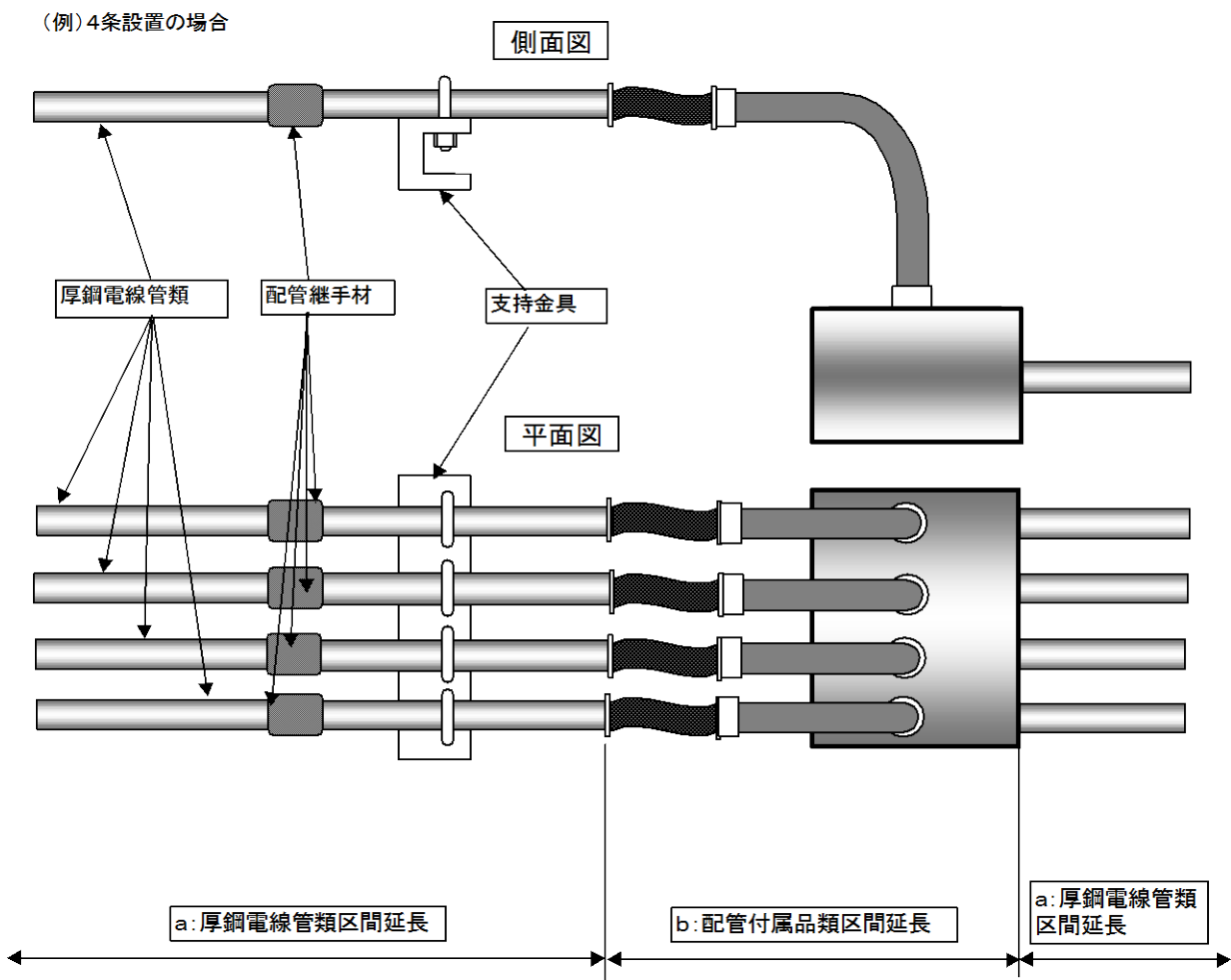


対象延長(掘削延長) = ※ $a - b$ とする。  
※ハンドホール幅は除き、配管継手材等は含む。

配管材料使用量  
設計数量 × 条数 ※設計数量 = FEP管類延長  
FEP管類延長とは、対象延長(掘削延長) =  $a - b$ とする。  
諸雑費には、配管継手材を含む。

[参考図 2]

露出部配管数量算出について



対象延長 = ※a + b

※a: 厚鋼電線管類区間延長とは  
配管類の設置延長であり、継手材の材料延長は含まれている。

b: 配管付属品類区間延長とは  
配管及び配管継手以外の配管部品の設置延長である。

(例)  
ブルボックス、可とう電線管、伸縮継手、ノーマルベント、その他必要な部品

配管材料使用量

設計数量 × 条数 ※設計数量 = a: 厚鋼電線管類区間延長  
諸雑費には、配管継手材の材料費等を含む。  
支持金具及び配管付属品類は、別途必要量を計上する。